

所 属	現代社会学部 現代社会学科(ビジネス文化専攻)		
主な担当科目	現代の日本社会		
	氏 名	三木 賢治	
	フリガナ	ミキ ケンジ	
	職 位	教授	
	学 位 等	政治学士(早稲田大学)	
研究内容・社会業績等			
<p>研究テーマは「ハンセン病と情報遮断」。「らい予防法」を違憲とする熊本地裁判決の後、2002年に厚生労働省が設置したハンセン病問題に関する検証会議に検証委員として参加。以来、全国13の国立療養所を訪問して元患者らの証言を集めてきた。とくにジャーナリストの立場から、悪法の極みとされる「らい予防法」が90年の長きにわたって患者を強制収容・終生隔離する根拠法とされ、ハンセン病が治る病気となって必要がなくなってからも存続した理由を情報との相関の観点から調査・分析してきた。その結果得ることができた一つの結論は、隔離によって療養所内外の情報が遮断されてしまい、療養所内で行われていた違法・非人道的行為が外部には隠蔽されてしまったこと、また、入所者の多くは外部の情報に接する機会を失ったために抗う術を十分に学ぶことができず、外部の理解者と自由に連絡することができなかったことなどが法廃止への動きを阻害したと考えるに至った。目下、その実証に取り組んでいる。</p>			
論文・書籍・資格等			
<p><研究テーマに関するもの> ▽『“らい予防法”とメディアの責任』(「新聞研究」2005年5月号) ▽『ハンセン病に関する検証会議最終報告書』(共著・日弁連法務研究財団・2005年10月) ▽『ハンセン病と情報遮断——隠された真実に迫る』(東北文化学園大学総合政策論集・2018年3月) ▽『ハンセン病療養所退所者実態調査報告書』(社会福祉法人ふれあい福祉協会・2018年3月) <その他の著作> ▽『東北人』(共著・毎日新聞社1976年) ▽『母校賛歌 わが青春の秋田高校』(毎日新聞社1977年) ▽『無重力の風土 秋田人を考える』(秋田書房1978年) ▽『都会の空はにごってた 終戦っ子87人の軌跡』(毎日新聞社1978年) ▽『事件記者の110番講座』(毎日新聞社1995年) ▽『“隣り”の研究 県民性大解剖』(共著・毎日新聞社1996年) ▽『東北むら半世紀』(編著・無明舎出版1996年) ▽『東北の100人』(編著・無明舎出版1996年) ▽『報道される側の人権』(共著・明石書店1997年) ▽『論憲の時代』(共著・日本評論社2003年) ▽『裁判官になるには』(ペリカン社2007年) ▽『検察官になるには』(ペリカン社2009年) <その他の論文> ▽『警察と新聞の間』(月刊「捜査研究」東京法令出版1999年8月号～2003年3月号連載) ▽『“犠牲、考——東日本大震災の教訓として』(東北文化学園大学総合政策学部紀要2012年3月)</p>			
学生へのメッセージ			
<p>大学で学ぶということは、疑問を抱き、その疑問について考え、調べて、解決の道を探ることにある。力の及ぶ限り諸君それぞれのそうした作業の手助けをする所存だ。講義の内容についても、大いに疑問を抱き、ぶつけてほしい。ともに考え、知識を深めていこう。</p>			